小規模校の地域での今後の位置付けは

保護者や地域の思いなどを考慮し議論していく



真野（まの） 尚功（ひさかつ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

地域社会における学校の在り方について

問 **小規模校の地域コミュニティでの役割の評価と、今後の位置付けについての考え方は。**

答 児童生徒数の多少にかかわらず、学校は地域コミュニティに関わる存在の一つとして位置付け、地域の実情に応じた教育環境の充実と地域との連携を図っていくことが重要である。保護者や地域の思いなどを考慮しながら、地域コミュニティにおける学校の位置付けについて、将来を見据えた総合的な議論を深めていく。

問 **学校が地域とともに育んできた貴重な教育的価値をどのように維持し、次世代へ引き継いでいくのか。**

答 現在各学校では、地域と連携して学校運営に取り組むコミュニティ・スクールの設置を進めており、これまでも各学校において地域の歴史や文化の継承に取り組んできた。このコミュニティ・スクールを活用し、住民や企業など地域の多様な主体と連携・協働することで、質の高いふるさと学習が実施できると考え、今後も次世代へ確実に引き継ぐことができるよう取り組んでいく。

問 **地域資源を学びに取り入れる柔軟なカリキュラムにより探究学習の充実などが期待できるが、このような体制整備に対する考え方は。**

答 中山小学校において、柔軟なカリキュラム編成ができるサキドリプログラムの承認を受け、先行実施している。学習活動の場を校外に広げ、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした持続可能な教育体制が各学校で構築できるよう支援し、子どもたちが地域と深く関わりながら、より実践的で社会に役立つ学習活動としてのふるさと学習を進めていく。



県との協議によるバイパス整備等と一体的に必要な現道の安全対策は

あらかじめ検討し一体的に計画していく



古川（ふるかわ） 幸宏（ゆきひろ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

渥美半島の防災力強化等に向けた一般道整備について

問 **愛知県と連携してどのような取り組みをしていくのか。**

答 県が公表した一般道整備方針に基づき、求められるサービス水準を踏まえつつ、強靭（きょうじん）で信号のない道路の実現を目指し、必要な整備手法について継続的に県と協議・調整していく。さらに、事業化に向けて必要となる調査や関係機関との調整について、県と情報を共有しながら進めるとともに、災害時の緊急輸送を確実に担う防災機能の強化を図るため、国に対して道路計画の具体化に向けた技術的な助言や予算の重点支援を求めるなど、県と連携して取り組んでいく。また、道路計画の進捗段階に応じ、地域住民への情報提供に取り組んでいく。

問 **県との協議によるバイパス整備と現道の安全対策は。**

答 現道の安全対策に関する県との協議については、バイパス整備により、交通量や大型車の交通が著しく増加すると想定される区間において、現在の交通状況や交差点、歩行者の通行状況なども考慮し、将来的な交通